



株式会社 イ・エス・エス 御中

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素から赤十字の活動にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

このたびも赤十字活動資金に、重ねての尊いご協力を賜り、誠にありがとうございました。

日本赤十字社は創立以来、世界中で絶え間なく起こる災害や紛争の犠牲者への救援活動、健康問題に苦しむ人々のための事業を展開してまいりました。

現在、ウクライナにおける紛争は各地に戦闘が拡大・激化し、人道危機は悲惨さと深刻さを増し、支援ニーズが急速に増大している状況にあります。

一方、国内においては、首都直下地震や南海トラフ地震など迫りくる大規模災害への備えに加え、近年頻発している台風等による大雨災害への対応、さらには感染症流行下での迅速な救護活動など、災害対応力の強化が求められています。

また、これまで幾度となく被災地に足を運んできた私たちですが、犠牲となった子どもたちや家族を失って苦しむ人々の姿を目の当たりにし、防災教育の重要性を痛感し、その普及に注力しております。

日本赤十字社がこうして新しい課題に挑戦し続けることができますのも、思いを同じくする御社並びに皆様のご支援のおかげです。

皆様から託していただいたご寄付は、災害時に活動する専門スタッフの養成や救援物資の拡充、防災教育や救急法等講習の充実、社会福祉施設や青少年赤十字事業などにおいて大切にご活用させていただきます。

恐れ入りますが、領収証をご送付させていただきましたので、ご査収賜りますようお願い申し上げます。

赤十字はこれからも、ご支援くださる皆様の思いを「一人でも多くのいのちと健康をまもる」赤十字活動に変えて、必要な方にお届けできるよう努めてまいります。

この度のご協力に重ねて御礼申し上げますとともに、御社のますますのご発展とご活躍を心からお祈り申し上げます。 謹白

日本赤十字社東京都支部

振興課 法人係 郷原、山崎、松田

(TEL03-5273-6743)

この度もご支援を賜りまして

誠にありがとうございました。

赤十字活動資金ご協力の御礼

日本赤十字社東京都支部
被災地派遣要員 山崎 樹



謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私は、被災地派遣要員であり、活動資金の募集を担当しております
山崎と申します。

このたびは赤十字活動資金にあたたかいご協力を賜り、誠にありが
とうございました。お寄せいただきました善意のお気持ちは、被災地
での医療救護活動をはじめ、避難所への救援物資の配分、こころのケ
ア等、苦しんでいる人々を救う赤十字活動に大切に役立てさせていた
だきたいと存じます。

令和元年10月12日、台風19号が上陸し、各地を記録的な大雨
が襲いました。当時、災害救護業務を担当していた私は、被害の発生
に備え、情報収集や関係機関との連絡調整を行っていました。全国各
地の河川の氾濫情報が入ってくるなか、22時20分過ぎにテレビの
速報で「多摩川が氾濫した」という一報が入ってきました。「ついに
都内でも水害が発生してしまった」。焦りと不安が入り混じった感情
を抱きつつ、詳細な被害情報を得ることが出来ずに歯がゆい思いをし
ていました。

翌日になり被害の全容が明らかになるなか、浸水被害を受けた病院の患者転院搬送に私が派遣されることになりました。現地に向かうまでの道中は、台風が過ぎ去り平穏を取り戻した街並みが続いていましたが、多摩川に近づくと一変しました。既に水は引いていましたが、道路一面に堆積した泥、漂う異臭、自宅が浸水して途方にくれる方々。目の前に広がる光景に、赤十字が立ち向かい続ける自然災害の脅威をまざまざと思い知らされると同時に、「一人でも多くの方を救う」という赤十字の責務を私の胸に深く刻んだ瞬間でもありました。

現在、東京都では、江東5区大規模水害や首都直下地震など、大規模災害の発生が危惧されています。今後待ち受ける災害から一人でも多くの命を救うため、赤十字は活動を続けます。皆様のご支援と託して下さる「救いたい」という思いが私たちの支えとなっています。

このたびのご協力に重ねて御礼申し上げますと共に、今後ますますのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

謹白



日本赤十字社 東京都支部
Japanese Red Cross Society

TEL03-5273-6743(振興課)